

リーダーシップとマネジメントの実践
感染防止対策に関しての意識の向上を目指して
～ECUにおける感染防止チームでのリーダーシップ～

キーワード：感染防止対策

吉野大智(救急病床)

I. はじめに

ECUにおける感染対策に関する現状と課題に関して、ECUの昨年の手指衛生サーベイランスの結果では13回以上を達成できた月は対策を強化した2回のみだった。また、ECUは患者の入退室も多く、手指衛生が徹底できていないと、感染の伝播につながる可能性がある。さらに、ECUでは体液暴露の可能性のある処置や患者の対応をすることが多いが、个人防护具(以下PPEとする)の着用の徹底ができていない。特にゴーグルやフェイスシールドの着用率は低く、昨年は救急外来(以下ERとする)で2件の粘膜への血液暴露の事故が起こっている。また、昨年は感染対策に関して、呼びかけや対策を行った際は一時的に実施できていたが、時間が経つにつれ、意識が薄れ、遵守率が低下するという傾向があった。しかし、スタッフ自身に手指衛生、PPE使用の実施について問うと、「実施している」との発言もあり、徹底できていないことを意識できていないという現状もある。そのため、感染対策が徹底出来ていない現状を周知し、適切な感染対策を習慣づけるためにもスタッフ1人1人の意識の向上を図ることが必要だと考えた。

II. 役割・立ち位置

看護師7年目で、当院のECUに配属してからは2年目になる。ECUはERと救急病床が一元化しており、私はERの専属として勤務し、今年度からECU全体の感染防止委員を担っている。

III. 目標

- 1) 標準予防策を遵守し、感染対策の質の向上を図る。
 - ①手指衛生サーベイランスを毎月13回/患者/日を達成できるようにする。
 - ②手指衛生・PPE着用の遵守率100%を目指す。
 - ③血液暴露・体液暴露による事故を起こさない。
- 2) 院内感染マニュアルをケア場面や患者対応で活用し、周知・徹底を図る。

①ECUからの感染のアウトブレイクを起こさない。

IV. 実践・結果・考察

6月より本格的に活動を開始した。6月に実施した内容としては、部署の感染対策の遵守状況を把握するために、チームで作成した手指衛生とPPEの他者評価・自己評価を実施した。また、毎月のICTの手指衛生サーベイランスの結果を申し送りノートに記載し周知も行った。さらに、昨年、ERで2件の血液暴露事故が起こったことを振り返り、救急科医師との共通目標に「血液暴露を起こさない」を挙げ、医師にも積極的なPPE着用を促すようにした。その結果は、手指衛生に関して、6月の手指衛生サーベイランス結果は7.2で、また、他者評価においては、入退室時の遵守率は約60%だった。(図1, 図2参照)さらに、他者評価自体の実施率も全体の6割しか実施できていなかった。また、救急病床で行っているKYTラウンドの際もサブリスクマネージャーより入退室時の手指衛生ができないとの指摘もあった。PPEに関しても、他者評価において、ゴーグルの着用が定着しておらず、すべての項目で実施率は50%を下回っていた。(図3参照)また、評価自体の回収率も30%程度だった。さらに、医師に関しては看護師から促さないとPPEを使用していない状態だった。要因として、まず、他者評価に関しては、普段勤務している救急外来では、実際に自分が勤務しながら評価方法の周知や実際の評価を行っていたため、ER勤務者は手指衛生の遵守率も評価の実施率も100%だったが、救急病床への周知が不十分であったことが考えられた。実際に救急病床のスタッフから「評価の方法がわからない。」やPPEに関して、「使用場面がわからない。」、「排泄ケアや採尿でゴーグルを使用する理由がわからない。」、「他人が使ったゴーグルを使いたくない。」、「ゴーグルが使いたいときに手元にない。」との意見もあった。さらに、手指衛生・PPEの両者において、

適切なタイミング理解が十分にできていない、また行えていなくても強く指摘されていなかったため、行動の変容に移せていないと考えた。

そのため、6月の結果をもとに7月以降の計画の修正を行った。そして、7月は、病棟会にて感染チームメンバーより、自己・他者評価の結果のフィードバック、手指衛生の5つのタイミング、PPE実施の推奨場面に関して周知、また、サブリスクマネージャーからも指導も行ってもらった。さらに、救急病床の感染チームメンバーと協力して他者評価の方法に関して再度周知し、また、チームメンバーが率先してPPE着用、手指衛生を行うようにした。

8月は、ゴーグル、フェイスシールドの設置場所の増量(ERは診察ブース、ECUは各病室に設置)と処置が多いERに関しては、専属の看護師・医師の個人用のゴーグルを導入した。また、PPEに関して、使用場面が視覚的に理解できるようにポスターを作成し、周知するようにした。

さらに、ICTより医師のPPE着用ができていないのとの指摘があった。しかし、ERは全科の医師が診察を行うことから、ERからの発信だけでは改善が難しいと考え、ICT看護師と状況を共有し、ICTより院内へPPE着用の強化を依頼した。

その結果、手指衛生サーベイランスの値は、7月は16.3、8月は14.4で目標の13回を超えることができた。また、8月の他者評価においても、入退室時100%、ミキシング時は95%と上昇がみられた。しかし、9月のサーベイランスの結果では、11.4と低下した。(図1、2参照)PPEに関しても他者評価の遵守率は上昇しており、吸引時は100%まで上昇した。しかし、排泄ケアに関してはゴーグルの着用ができておらず50%を下回っていた。(図3参照)医師に関して、客観的にゴーグル着用頻度は増加し、創傷処置など、研修医にも着用を指導する場面もみられた。手指衛生・PPEの他者評価の回収率はどちらも9割まで上昇したが、遵守率はまだ定着は出来ていなかったため、9月の病棟会で手指衛生・PPE遵守状況の結果を全体にフィードバックし、再度、PPE着用と手指衛生の強化を促した。

10月はPPE、手指衛生の自己・他者評価の実施に加えて、感染性腸炎やインフルエンザの対策も行った。結果として、手指衛生に関しては、10月の他者評価では、入退室時・ミキシングはほぼ100%実施できていたが、サーベイランス結果は、9.9と9月よりさらに低下傾向にあり、他者評価の結果とは連動していなかった。(図1、図2参照)PPEに関しては、他者評価の結果は全項目上昇していたが、100%を達成できていたのは、吸引の処置のみであり、まだ徹底には至っていなかった。(図3参照)

図1 5月～10月 手指衛生サーベイランスの結果

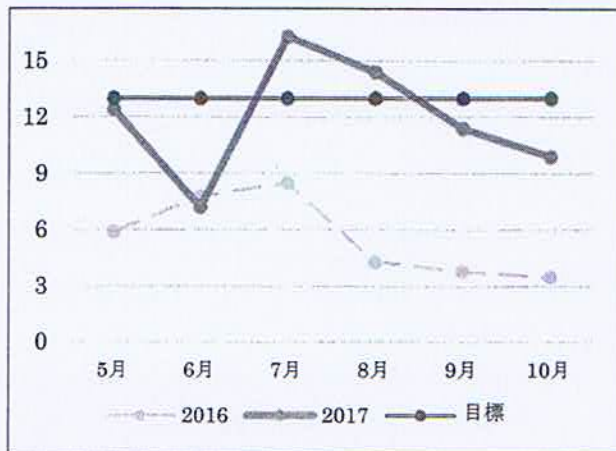


図2 手指衛生の他者評価の結果

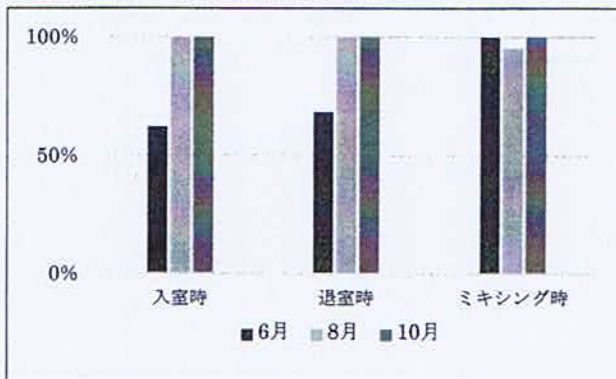
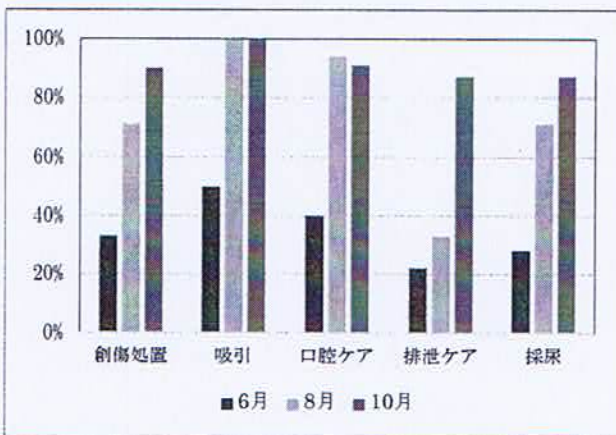


図3 PPEの他者評価の結果



V. 課題

今後は、手指衛生とPPEに関しては定着できていない要因や他者評価とサーベイランスが連動していない要因を把握するためにも抜き打ちでのラウンドを計画し、実施状況を確認し、できていない場合は、その都度、口頭にて指導し、強化を図っていくこと。また、感染対策が定着していない原因として、個人のリスクの認識の低さも関与している可能性も考えら

れ、今までは自己他者評価の結果を病棟全体へ発信して
 いただけだったが、今後は行えていないスタッフ 1 人 1
 人へのフィードバックも実施していく。血液・体液の粘
 膜への暴露に関して、10月に針刺し事故が1件あり、そ
 の要因は12誘導心電図とルート確保を同時に行った際
 のコミュニケーション不足だった。そのため、事例を共
 有し、コールアウトの強化が必要と考えられた。

季節流行性感染症対策に関して、ECUからのアウト
 ブレイクの発生はなく、今後も引き続き、対策を強化し
 ていく。

VI. まとめ

研修を通しての学びとして、当初、計画立案や実践を
 ほとんど1人でしている場面が多く、メンバーシップを
 活用できず、活動内容が全体的に周知できていなかった。
 また、手指衛生やPPEの実施状況に関して、普段、勤
 務しているERにおいては、現状をすぐに確認し対策を
 検討できたが、救急病床においては現状も把握できず
 対応が十分にできず、ほとんど成果を得ることはできな
 かった。そこで、救急病床のチームメンバーへ現状や課
 題を共有し、計画の修正を行うとともに、積極的な
 感染対策の実施を依頼し、全体的に行えていないこと
 に関しては管理者からも指導をしてもらった。結果、一時
 的だったが感染対策は向上し、課題を明確にし、計画を
 立て、メンバーや管理者を巻き込んで活動することの重
 要性を知ることができた。しかし、まだ習慣化につなげ
 ることはできていない。その要因として、今年度より、
 自己・他者評価、ポスター作成、病棟会でのアナウンス
 などの活動を開始したが、その活動の目的をスタッフへ
 十分に共有できていなかったこと、さらに、ECUは救
 急病床、ERの2部署があるにも関わらず、ほとんどの
 活動を自分が中心になって行ってしまったことで、他の
 メンバーの責任感の向上やメンバーシップの発揮に繋が
 らなかったことだと考えた。そのため、今後はチームメ
 ンバーへの明確な役割分担を行い、現活動を継続すると
 ともに、活動内容や目的、結果、考えられる要因を全ス
 タッフとともに共有し、感染対策の重要性を意識づけし
 ていく必要があると考える。

図4 ECUで使用した他者評価チェック表
 (手指衛生)

月	他者評価		さん
手指衛生チェックシート○×で評価してください。			
	手指消毒	手洗い	
※入室時			
※退室時			
ミキシング時			
※ERは診察スペース、ECUは病室とする。			

図5 ECUで使用した他者評価チェック表(PPE)

月	他者評価				さん	
PPEチェックシート○×で評価してください。						
	創傷処置	吸引	口腔ケア	排泄ケア	※採尿	
手袋						
マスク						
エプロン						
ゴーグル						
※採尿: 導尿、尿道留置カテーテル挿入時、カテーテルバック時からの採尿も含む。						